

シクリスムエコーNo.108 2004年6月号

第28回オリンピック代表候補選手団の発表について・2
 オリンピック代表候補選手メンバー……………3
 第8回ツアー・オブ・ジャパン……………4
 MTB オリンピック代表選手選考大会……………8
 第51回全日本プロ選手権トラックレース……………9
 第73回全日本アマチュア選手権トラックレース……………10
 2004年JOCジュニアオリンピックカップ……………11

2004年トラック世界選手権大会……………12
 日本新記録……………13
 UCIトラックワールドカップ・クラシックス第4戦シドニー 14
 JCFニュース……………15
 競技大会結果……………15
 加盟団体 住所等変更……………16
 連盟の動き(5月中旬～6月上旬)/6・7月の主な予定・16



ツアーオブジャパンで初の総合優勝をかざった福島晋一

第28回オリンピック競技大会(2004/アテネ) 自転車競技日本代表候補選手団の発表について

6月9日(水)平成16年度第1回国際競技大会派遣選手選考委員会に於て、以下のとおり「第28回オリンピック日本代表候補派遣選手団」が決定し、同日午後1時より日本自転車会館イベントホールに於て共同記者会見が催された。



代表選手団スケジュール(予定)

6月15日～22日	トラック組合宿(前橋)
23日	壮行会(東京ドーム)
7月3日～30日	トラック組合宿(場所未定)
4日～13日	ロード組合宿(野辺山)
24日	JOC結団式(東京プリンスH)
8月上旬	MTB組合宿(場所未定)
9日	ロード組出発(大会:14日～15日)
13日	開会式
14日	トラック組出発(大会:20日～25日)
17日	ロード組帰国(18日成田着)
22日	MTB組出発(大会:28日)
27日	トラック組帰国(28日成田着)
30日	MTB組帰国(31日成田着)
9月1日	解団式(場所未定)

アテネオリンピック競技大会派遣選手団

大会日	<ロード>8月14日～15日	<トラック>8月20日～25日	<MTB>8月28日
場所	ギリシャ・アテネ		
派遣期間	<ロード>8月9日～18日	<トラック>8月14日～28日	<MTB>8月22日～31日
選手団	ゲーリー・ウエスト(JCFチームディレクター)		
監督	班目 秀雄(JCFトラックコーチ)・高橋 松吉(JCFロードコーチ)・杉山 喜一(JCF MTBコーチ)		
コーチ	鬼原 積(JCFロードスタッフ)・森 昭雄(JCFトラック・MTBスタッフ)		
メニク	柳 浩史(JCFスタッフ) ドクター 小林 裕幸(JCFスタッフ)		
マッサー	小林 恵三(JCFスタッフ) 総務 林 富士夫・関口 美裕(JCF強化部)		
通訳	選 手<ロード> 田代 恭崇(JPCA)・鈴木 真理(JPCA)・沖 美穂(JPCA)・唐見実世子(石川)		
選 手	<トラック> 伏見 俊昭(JPCA)・長塚 智広(JPCA)・井上 昌己(JPCA)・飯島 誠(JPCA)・大菅小百合(長野)		
選 手	<MTB> 竹谷 賢二(千葉)		

SHIMANO

*The 100th Anniversary Tour de France
Lance Armstrong
United States Postal Service Team, USA
Wins Fifth Consecutive
Riding New DURA-ACE*

DURA-ACE

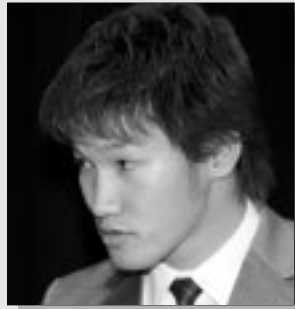
www.shimano.com

代表候補選手メンバー

<トラック・男子チーム スプリント> 3名(スプリント・1kmTT・ケイリンに各1種目出場可)



伏見 俊昭 *フシミ トシアキ*
(JPCA・福島)1976生



長塚 智広 *ナガツカ トモヒロ*
(JPCA・茨城)1978生



井上 昌己 *イノウエ マサキ*
(JPCA・長崎)1979生

<トラック・男子ポイントレース> 1名

<トラック・女子500mタイムトライアル> 1名



飯島 誠 *イジマ マコト*
(JPCA・茨城)1971生



大菅 小百合 *オオスガ コユリ*
(長野・三協精機)1980生

<ロード・男子個人ロードレース> 2名

<ロード・女子個人ロードレース> 2名



田代 恭崇 *タシロ タカアキ*
(JPCA・ブリヂストンアカ)1974生



鈴木 真理 *スズキ マコト*
(JPCA・シラルーソウ)1974生



沖 美穂 *オキ ミホ*
(JPCA・ファームリッツ)1974生



唐見 実世子 *カミミヨ*
(石川・デルタ村)1974生

<マウンテンバイク・男子クロスカントリー> 1名



竹谷 賢二 *タケヤ ケン*
(千葉・フォートスチャライズ)1969生



8th TOUR OF JAPAN

2004.5/23 (Sun) ~ 30 (Sun)



第1ステージ優勝 NIPPOのWIESIAK

- 大阪ステージ -

ヴィズィアック優勝。総合成績でも首位に

今年初めて採用された大阪ステージの新コースは、海からの風が吹き抜けて、「まるで春のクラシックレースみたいな雰囲気ですね」と実況の白戸太朗がコメントするほどだった。サポートカーが砂まじりの粉塵を巻き起こし、参加94選手は時速45キロでフラットコースを駆け抜けた。

レースは序盤から10選手が抜け出し、後続集団がそれを追いかける展開に。しかし最後は同一集団となってヴィズィアックが大集団によるゴールスプリントを制した。

「チームメートが第一集団に入っていたので、後続の集団の中でゴール勝負に持ち込まれるのを待っていた。こういった展開になればチームメートが協力してくれるので、得意な距離からスプリントすることができた」とヴィズィアック。昨年まではU23の大会で合計10勝し、エリートクラスに昇格した今年はこれで3勝目だ。

してやっつりの大門宏監督は「2日前にイタリアからやって来たので、体調は万全ではなかったが、目標の区間優勝を獲得できた。彼はオールラウンダーでアップダウンのあるコースも得意」と語る。チームとして絶好のスタートを切った。

中間スプリントポイントにかけられた得点の累計で争うスプリント賞では、地元シマノの山本雅道が1位となり、黄色のジャージを着用した。

「シマノに入って4年目で、やっと仕事らしいことができた。スタート前からこのジャージを狙っていたが、明日からはチームのために走りたい。総合優勝の方が大事ですからね」

ブリヂストン・アンカーの田代恭崇はゴール手前900メートルで落車して遅れたが、残り1キロを切ったの落車のためトップと同タイムとなった。

- 奈良ステージ -

別府匠、激戦区の奈良V、総合でもトップに

レース終盤に日本勢がついに動いた。リーダージャージのマリウス・ヴィズィアックを擁するNIPPOの広瀬が単独でアタック。これに続いて集団を抜け出したのが別府だった。序盤はなかなかうまく走ることができず、集団から脱落しそうになったが、一発勝負をかけての思いきった決断だった。

「実は広瀬選手が前にいることを知らなかった。終盤になってようやく走りの手応えを感じることができたので、少人数に絞り込むために前に出た。別府は、レース後にこう語っている。

すぐに総合優勝をねらうブリヂストン・アンカーの福島晋一も2人を追い、優勝争いはこの3人にしぼられた。そしてゴール勝負を冷静に別府が制した。日本勢のステージ優勝は4人目となるが、この日の結果により2日間の総合成績で日本勢初の首位に立った。「これが1着でゴールすることなんだ。別府はこれまでに味わったことのない感慨を味わう。リーダージャージを着ることになりましたが、これまでと同じ走り方を心がけるだけ。毎日をワンデーレースのように戦います」

この日から山岳賞争いも加わり、シマノの鈴木真理が深紅の山岳ジャージ



第2ステージ優勝 愛三の別府

を獲得。「勝つという意欲が別府君よりも足らなかったかな。次のステージからは山岳ジャージを守れるように走ること、個人総合が見えてくるはず」

別府はポイント賞ジャージも獲得。前日にスプリント賞ジャージを獲得した山本雅道(シマノ)を含めて、4つのリーダージャージを日本勢が独占。しかも神奈川県湘南地方出身、藤沢市にあるワタナベレーシングに所属していた選手だ。

- 修善寺ステージ -

ロザノ修善寺を制す! 総合は別府が死守

これまでのTOJで数々の名勝負を生んだ修善寺ステージ。最大の勝負どころに80選手が挑んだ。緊張の面持ちでスタートしたリーダージャージの別府を、愛三工業のアシスト陣がサポートする。レースは序盤からシマノの阿部良之ら6選手が第一集団を形成。これに対して有力集団は第二集団に残り、レース終盤で阿部らを吸収した。

レースは大詰めになってブリヂストンとシマノの2強が積極的なアタックを繰り返し、集団が活性化。別府はこの時までアシスト陣を失い、他チームの波状攻撃に必死で食らいつく。鈴木真理と田代恭崇のアテネ五輪代表選手もアタックを試みたが、オルペアの3選手が集団を引き上げ、最後はロザノがゴール勝負を制した。

ロザノは強豪チームだったケルメに所属していた選手。ワールドカップのツール・ド・フランドルやリエージュ〜バスターニュ〜リエージュで完走し、



第4ステージ優勝 VCフランクフルトのSCHULZE(右端)

第3クラスのGPゲチョで優勝している。上りを得意とし、それでいてゴール勝負も強いオールラウンダー。それだけに「このコースは得意なフィールドだった」と語っている。

「日本勢のレベルの高さはあなどれないね。チームメートがいなかったら次々とアタックした日本選手らを捕まえられなかっただろう」とロザノ。

リーダージャージを守った別府は区間5位でゴール。総合1位を守り抜いたことを確信し、ガッツポーズが飛び出した。

「攻めて攻めて勝つよりも、守り抜くことの難しさを初めて知った」と語る別府だが、さすがにホッとした表情。組織力で上をいくシマノやブリヂストンの攻撃をしのいだ別府が最難関のス

テージを乗り越えた。総合優勝への可能性も見え隠れする。

- 茂木ステージ -

別府、総合トップ堅持。区間Vはシュルツ

奈良ステージで区間優勝して、総合トップに躍り出た別府。最難関の修善寺を乗り切り、この日の平坦なステージに挑んだ。別府をアシストする愛三工業の選手は1人減の4人。バルセロナ五輪代表の田中光輝をはじめ、新保光輝、秋田謙、西谷泰治が鉄壁の布陣で臨んだ。大会4日目のレースは9時半に80選手がスタートした。

前半から5人の逃げが決まると、リーダージャージを持つ愛三工業チームがフォーメーションを組みながら後続集団のペースをコントロールする。しかし「致命的なタイム差をつけられないように注意していれば、泳がせていても大丈夫」という判断だ。ゴール勝負に持ち込んでスプリンターの三船雅彦に勝たせたいミヤタ・スバルも先頭に立ってペースアップ。こうなると別府のリーダージャージは安泰だった。

「実はこのコース、ボクにとっては平らとは思えないんですよ」と別府は打ち明けている。「2年前は集団から脱落していますから」。チームのアシスト陣が第2集団の先頭で一列に走る姿を見ながら、「涙が出るほど感激した」とゴール後に語った。

後続集団は絵に描いたようにゴール前までに逃げた5人を吸収。最後はスプリンターによるゴール勝負となってシュルツがステージ勝利。今季6勝目



第3ステージ優勝 エチェオンドのLOZANO

をあげた。別府は難なくリーダージャージを守った。

最後の山岳ステージ、宇都宮でリーダージャージを守り切ることで、別府は総合優勝に大きく近づかずだ。

「マークするのは2秒差の福島晋一選手。エチエオンドのロザノ。それに今日はシマノ勢が動いていなかったの、明日の宇都宮は注意していきたい」

- 宇都宮ステージ -

福島晋一、総合トップに！ロザノは2勝目

アテネ五輪をかけた全日本選手権で敗北した後、福島晋一はこう語っている。「次のレースでは力でねじ伏せるような勝ち方をしたい」。つまり誰が日本で一番強いのかを証明したかったはずだ。この大会では開幕前からテレビ局の密着取材があり、チームの作戦会議までカメラが入った。プレッシャーのかかる日々だったことは確かだ。

福島はこの日、スタート直後から勝負を仕掛けた。首位の別府とは2秒差。福島が先頭に出ると総合3位のロザノらが反応。有力選手の攻撃に、愛三工業のアシスト陣は前日に続いたハードワークを余儀なくされ、力が尽き果てて脱落していく。別府のアシストは早い段階から西谷泰治だけになり、自らも全力で集団の先頭を走るしかなかった。

先頭集団は周回を重ねるごとに小さくなり、福島と田代恭崇、ロザノらに絞

られた。最後は4人のゴール勝負でロザノが区間2勝目。しかし同タイムの3位に入った福島が総合成績でトップに立った。

「修善寺では力でねじ伏せようとして振り返りに遭った。最後の逃げに田代がいてくれたことが助かった。ロザノらが彼を追ったので、後ろについていくだけでよかった。最後の峠を越えた時に、やっと総合成績でトップに立てたと思った」

「別府君が予想以上に強かったのが苦戦した理由」と語る浅田監督もほっとした表情を浮かべた。「日本勢はこれまでチームとして動くことができなかったが、今回はナンバー1としてやれるんだということを証明したかった。レースが終わってからボクたちがどんな作戦を立て動いていたかを検証してもらえるように、テレビや各メディアに情報を提供してきましたから」

日本勢初の総合優勝まであと1ステージである。



- 東京ステージ -

福島晋一、日本勢初の総合優勝を達成

第5戦の宇都宮ステージで総合トップに立った福島晋一が、最終日の東京をしのいで日本勢として初めての総合優勝を達成した。この日は周回コースとなる大井埠頭に入ってから逃げ集団が形成され、その中から単独で抜け出したグエリーニが最終日の勝利をもち取った。

グリーンのリーダージャージを着用する福島は、5人のチームメイトに援護され、第2集団の中でゴールを目指した。総合成績の上位選手がアタックを仕掛けるそぶりを見せると、すぐに反応。その状態は最後まで崩れることはなく、総合成績の上位選手は同じ集団の中でゴール。この瞬間に福島は総合優勝が決まった。

「五輪選考会の全日本選手権では田代に続いて2位に入り、代表の座を勝ち取りたかった。エースに起用してもらった今回は、これで勝てなかったら終わりだとさえ思った。不安になることもあったが、ステージレースで初めて総合優勝することができて、チームメイト全員と監督に感謝したい（福島晋一）」

「エースより強くなければアシストではないと監督に言われていたけど、なかなか走れず、こんなじゃダメだと思った。渋谷さんと水谷さんにおんぶにダッコだった（福島康司）」

「ボクと福島は2人がエースと公言してきたが、実はスタートから福島1本で戦っていた。ヨーロッパでやってきたことが成果となった（田代恭崇）」

「このチームなら勝ってもおかしくないだろうということをアピールできたと思う（浅田顕監督）」



第5ステージ優勝で区間2勝目LOZANO

今中大介(大会公式コメンテーター) の「今大会を振り返って」

この大会を盛り上げたのは別府匠だ。今まで海外勢にやられてばかりだったので、日本選手が初の総合優勝を果たして、爽快で痛快。海外遠征をしているブリヂストンやシマノといったチームがようやく力を発揮してくれた。今まではレースをコントロールしきれず、何となく力負けをしていた。ブリヂストンは今年になってみんな好調で、不要な逃げやアタックもなく、自らレースを作っていた。宇都宮ステージで勝ったロザノがガッツポーズをして、チームメートと抱き合っていて喜んでいたことが、日本選手が強かったことを物語っている。

日本選手は奈良ステージが大きなカギと認識していた。奈良が今大会の一番のポイントで、すべてを決定づけた。日本選手3人の飛び出しに海外勢がついてこられなかった。別府匠の存在も大きかった。総合優勝した福島晋一も手こずった。別府がいなかったらこうはならなかった。

(TOJ広報ニュースより抜粋)

[競技結果]

個人総合時間順位

1	福島 晋一	JPN BGT	20:07:56
2	LOZANO Robert	ESP ETO	20:08:10
3	HEULE Christian	SUI MKV	20:08:11
4	TETERIOUK Mikhail	KAZ NIP	20:08:36
5	狩野 智也	JPN SHI	20:08:41

6	鈴木 真理	JPN SHI	20:08:49
7	田代 恭崇	JPN BGT	20:09:14
8	BETTS David	AUS AUS	20:09:46
9	WANG Guozhang	CHN CHN	20:09:47
10	MIZBANI IRANAGH Ghader	IRI GNT	20:09:53

個人総合ポイント賞

1	LOZANO Robert	ESP ETO	11 p
2	WIESIAK Mariusz	POL NIP	9 p
3	SCHULZE Andre	GER VCF	9 p
4	HEULE Christian	SUI MKV	8 p
5	福島 晋一	JPN BGT	7 p
6	鈴木 真理	JPN SHI	7 p

個人総合スプリント賞

1	KEMPS Aaron	AUS AUS	20 p
2	山本 雅道	JPN SHI	13 p
3	GUERRINI Stefano	ITA NIP	11 p
4	CHADWICK Glen	AUS GNT	10 p
5	西谷 泰治	JPN AIS	6 p
6	SANDERSON Nicholas	AUS AUS	5 p

個人総合山岳賞

1	AITOR GALDOS Alonso	ESP NIP	15 p
2	鈴木 真理	JPN SHI	12 p
3	阿部 良之	JPN SHI	10 p
4	FRANCO Sebastian	ESP ETO	8 p
5	野寺 秀徳	JPN SHI	5 p
6	狩野 智也	JPN SHI	4 p

団体総合時間賞

1	シムラジック	60:28:48
2	チームブリヂストンアンカー	60:29:22
3	チームマカデイ	60:35:53
4	チームフェイク	60:43:47
5	チームNIPPO	60:49:04
6	オーストラリア・ナショナルチーム	60:55:33

第1ステージ 5/23(大阪) 96.80 km

1	WIESIAK Mariusz	POL NIP	2:09:23
2	SCHULZE Andre	GER VCF	2:09:23
3	KEMPS Aaron	AUS AUS	2:09:23
4	AITOR GALDOS Alonso	ESP NIP	2:09:23

5	RAMSAUER Jan	SUI MKV	2:09:23
6	水谷 壮宏	JPN BGT	2:09:23
7	KLAUS Marcel	SUI MKV	2:09:23
8	LOZANO Robert	ESP ETO	2:09:23
9	HEULE Christian	SUI MKV	2:09:23
10	渋谷 淳一	JPN BGT	2:09:23

第2ステージ 5/24(奈良) 126.20 km

1	別府 匠	JPN AIS	3:02:10
2	福島 晋一	JPN BGT	3:02:12
3	廣瀬 敏	JPN NIP	3:02:15
4	HEULE Christian	SUI MKV	3:02:29
5	LOZANO Robert	ESP ETO	3:02:29
6	TETERIOUK Mikhail	KAZ NIP	3:02:29
7	狩野 智也	JPN SHI	3:02:34
8	鈴木 真理	JPN SHI	3:03:05
9	岡崎 和也	JPN NIP	3:03:07
10	田代 恭崇	JPN BGT	3:03:07

第3ステージ 5/26(修善寺) 120.00 km

1	LOZANO Robert	ESP ETO	3:35:49
2	HEULE Christian	SUI MKV	3:35:50
3	鈴木 真理	JPN SHI	3:35:52
4	WANG Guozhang	CHN CHN	3:35:52
5	別府 匠	JPN AIS	3:35:52
6	LAI Kuan Hua	TPE GNT	3:35:52
7	FRANCO Sebastian	ESP ETO	3:35:52
8	TETERIOUK Mikhail	KAZ NIP	3:35:52
9	真鍋 和幸	JPN MYT	3:35:52
10	狩野 智也	JPN SHI	3:35:52

第4ステージ 5/28(茂木) 148.56 km

1	SCHULZE Andre	GER VCF	3:35:36
2	WIESIAK Mariusz	POL NIP	3:35:36
3	HOLLANDS Edmund	AUS GNT	3:35:36
4	BETTS David	AUS AUS	3:35:36
5	SANDERSON Nicholas	AUS AUS	3:35:36
6	HEULE Christian	SUI MKV	3:35:36
7	AITOR GALDOS Alonso	ESP NIP	3:35:36
8	三船 雅彦	JPN MYT	3:35:36
9	渋谷 淳一	JPN BGT	3:35:36
10	LOZANO Robert	ESP ETO	3:35:36

第5ステージ 5/29(宇都宮) 154.50 km

1	LOZANO Robert	ESP ETO	4:15:18
2	鈴木 真理	JPN SHI	4:15:18
3	福島 晋一	JPN BGT	4:15:18
4	HEULE Christian	SUI MKV	4:15:18
5	田代 恭崇	JPN BGT	4:15:25
6	BETTS David	AUS AUS	4:15:38
7	RAMSAUER Jan	SUI MKV	4:15:38
8	WANG Guozhang	CHN CHN	4:15:41
9	渋谷 淳一	JPN BGT	4:15:41
10	BUETIGER Bruno	SUI MKV	4:15:41

第6ステージ 5/30(東京) 149.10 km

1	GUERRINI Stefano	ITA NIP	3:25:50
2	HOLLANDS Edmund	AUS GNT	3:25:52
3	SANDERSON Nicholas	AUS AUS	3:25:52
4	WONG Ngai Ching	HKG HKG	3:25:52
5	西谷 泰治	JPN AIS	3:25:52
6	GUGGER Roman	SUI MKV	3:25:52
7	山本 雅道	JPN SHI	3:25:52
8	柿沼 章	JPN KNN	3:25:52
9	FRANCO Sebastian	ESP ETO	3:25:52
10	中川康二郎	JPN MYT	3:25:52



第6ステージ優勝 NIPPOのGUERRINI

MTB オリンピック代表選手選考大会



今までも、数々のドラマを作り出してきた4年に一度のスポーツ最大にして最高のイベント、オリンピック!その代表選手を選出するために初めての特別な大会(今まではシリーズ戦と同時開催)が、50名の精鋭を愛媛県八幡浜市に集めて、去る5月30日に晴天の中、大盛況の内に開催されました。

大会前日のトレーニングの時から多数のギャラリーが詰め掛け、当日は通常のレースの数十倍にもあたる約1万人も集まり、選手たちのテンションも高まっている様子。会場全体が一種異常な

見事オリンピック出場権を獲得した竹谷



興奮と緊張感に包まれる中、号砲でスタートされると精鋭50名は1つの大きな塊になって、スタートループを回りだしました。コースは小石などが浮いてはいるがスムーズな路面が続くハイスピードコースで、テクニカルなダウンヒルセクションも1ヶ所含む1周20分前後の、オリンピック代表選手を選考するに相応しい現在の世界基準を満たすコースです。

序盤まず飛び出したのが小笠原(Gary Fisher)で、すこし離れて2位集団の中には、有力選手がギッシリ詰まった状態。3周目に2位集団より竹谷(FORD/SPECIALIZED)と鈴木(チームブリヂストンアンカー)、色川(GIANT JAPAN)の3名が飛び出し、小笠原をかわしてトップ集団を形成してメイン集団を引き離しにかかる。メイン集団から山本(キャノンデール・マキシス)と山口(MX MONGOOSE)が必死の追い上げをみせるも、

トップ集団から竹谷のアタックが見事に決まる。多くの選手がトラブルに見舞われる中、竹谷は抜群の集中力と気迫の勝る走りを大観衆に見せ、大歓声を受けながら、歓喜のゴールを超え、2位に3分近くの差をつける完

勝となった。また、地元の門田(FORD/SPECIALIZED)もトップ選手以上の声援に後押しされ、5位に食い込む健闘をみせた。竹谷は、オリンピックでも素晴らしい活躍をすることでしょう。

選ばれし20名で繰り広げられたエリート女子のレースも忘れてはなりません。レースは白熱した戦いで、最後はベテランの中込(SY-Nak SPECIALIZED)と成長株の片山(TREK)の一騎打ちとなったが、ベテランの考え抜かれた走りを見せた中込が僅差で優勝した。

男女とも、歴史に残る素晴らしい戦いの足跡を、四国・八幡浜に刻みつけました。(中西 裕幸)

[競技結果]

エリート男子

1	竹谷 賢二	千葉	SPECIAL.	2:30:30.20
2	色川 浩樹	茨城	GIANT J.	2:33:16.20
3	山本 和弘	長野	キャノン	2:33:22.68
4	山口 孝徳	長野	MX/MON.	2:35:21.03
5	門田 基志	愛媛	SPECIAL.	2:38:22.36
6	笹部 勝	大阪	キャノン	2:38:41.49
7	宇田川 聡仁	長野	ブリヂストン	2:39:48.63
8	大矢 繁	兵庫	フェア	2:41:48.32
9	堂城 賢	長野	G.FISHER	2:42:48.09
10	山田大五郎	福岡	BRYDER	2:44:45.10

エリート女子

1	中込由香里	長野	SY-Nak	2:12:06.03
2	片山 梨絵	神奈川	TREK	2:12:31.63
3	深井 薫	大阪	G.FISHER	2:16:51.00
4	田崎 綾	千葉		2:26:23.45
5	狩俣けい子	大阪	ガッピ	2:30:43.68
6	菊川 明子	岡山	岡山大学	2:31:13.62
7	佐々木優子	茨城	FORZA・フォルツァ!	-1lap
8	池田 桂子	大阪	チームガッピ	-1lap
9	武田美夕紀	愛媛	走れ馬鹿犬	-2lap
10	坂本 麻里	愛媛	花川堂	-2lap

第51回全日本プロフェッショナル自転車競技選手権 ＜トラック・レース＞

スプリント決勝



平成16年5月9日、前日の晴天とは違って変わって早朝から雨が降る中、三重県四日市市・四日市競輪場において、第51回全日本プロフェッショナル自転車競技選手権大会トラック・レースが実施された。記録も期待されず、寛仁親王牌競輪の特選シードを賭けて、争われた。

主なレース結果は、1kmタイムトライアル中川(熊本)スプリント井上(長崎)ケイリン小嶋(石川)チームスプリント関東(稲村、小林、兵藤)等。

(鈴木賢三)

〔競技結果〕

1kmタイムトライアル

- 1 中川誠一郎 熊本 九州地区 1:04.944
- 2 荒井 崇博 佐賀 九州地区 1:05.031
- 3 神山雄一郎 栃木 関東地区 1:05.209
- 4 矢口啓一郎 群馬 関東地区 1:05.443
- 5 武田 豊樹 茨城 関東地区 1:05.753
- 6 渡辺 十夢 福井 近畿地区 1:06.313

スプリント

- 1 井上 昌己 長崎 九州地区
- 2 金子 貴志 愛知 中部地区
- 3 石橋慎太郎 静岡 南関東地区
- 4 榊枝 輝文 福島 北日本地区

4km個人追抜競走

- 1 内田 慶 栃木 関東地区 4:43.043
- 2 佐々木孝司 青森 北日本地区 4:51.670
- 3 原田 和明 千葉 南関東地区 4:53.814
- 4 中井 健二 岡山 中国地区 4:55.919
- 5 鳥生 知八 愛媛 四国地区 4:58.597
- 6 野井 正紀 神奈川 南関東地区 4:59.146

ケイリン

- 1 小嶋 敬二 石川 中部地区
- 2 松岡 彰洋 三重 中部地区
- 3 合志 正臣 熊本 九州地区
- 4 一丸 安貴 愛知 中部地区
- 5 山口 幸二 岐阜 中部地区
- 6 香川 雄介 香川 四国地区

ポイントレース (雨天のため中止)

チームスプリント

- 1 関東地区 稲村・小林・兵藤 1:15.458
- 2 中部地区 志智・加藤・永井 1:16.429
- 3 南関東地区 渡邊・丸山・新田 1:17.879
- 4 四国地区 渡部・宇根・曾我部 1:18.135
- 5 近畿地区 澤田・高城・筒井 1:18.137
- 6 中国地区 白井・内村・隅 1:18.674

4km団体追抜競走

- 1 関東地区 吉田・小沼・白岩・太田 4:39.22
- 2 北日本地区 松崎・佐藤・青森・山崎 4:39.71
- 3 四国地区 馬場・宮本・近藤・眞鍋 4:43.24
- 4 中部地区 坂上忠・北野・坂上樹・北野 4:44.60
- 5 中国地区 郡・石田・吉永・大屋 4:44.96
- 6 近畿地区 久米・岩崎・山岸・原田 4:45.01



チームスプリント優勝の関東地区

個人追抜優勝の内田



第73回全日本アマチュア自転車競技選手権トラックレース

伝統あるアマチュアのピックレースが、2年後に国体を控える兵庫県明石公園自転車競技場で開催された。

<女子500mTT・スプリント>

昨年の覇者不在のなか、昨年3位の鹿屋体育大遠藤が一人37秒台をマークして優勝。続くスプリントでも全勝の強さでチャンピオンに。

<男子1kmTT・スプリント>

福井、在本といったベテラン組を押さえて早稲田大川村が初優勝。川村はスプリントでも予選3位であったが、その後対戦負けなしの完全V。

<男子ケイリン>

バックストレートでの縦一列が、一気に横一線ゴールとなったこのレース。接戦から抜け出したのは茨城の大木だった。ベテラン吉田も外から捲っていったが届かなかった。

<女子3km個人追抜競走>

決勝戦は東京の村中が終始石川の唐見をリードし、結果5秒の差をつけて優勝。一方3・4位決定戦は4分19台の接戦勝負となり明治大学の永田が制した。

<男子4km個人追抜競走>

昨年のチャンピオンの浦門が地元開催を飾れず惨敗。そんななか、第一人者の法政大黒木が他を圧倒するタイムで優勝。また地元兵庫の三木が3位と善戦した。

<男子ポイント・レース>

目まぐるしく点を取り合う展開で、最後まで優勝の行方がわからないレースとなった。そんななか、1位通過を2度含む5度のポイントに絡んだ日本大学の盛が18点で優勝。三瀧、池田の鹿屋体育大学コンビは届かず2位、3位であった。順天堂大学の佐藤も三度の1位通過をするも及ばず。

<女子ポイント・レース>

序盤は前年度覇者森本を中心としたレース展開であったが、中盤で伸び盛りの法政大松永の力強い走りがレースの流れを変えていった。そして森本1点リードで迎えた最終周回において、1対1の勝負を制した松永が全アマ初優勝を飾った。

<マディソン・レース>

前日にポイントレースを制した盛が、1kmタイムトライアル準優勝の伊藤とコンビを組み、他を圧倒。この種目

を制した。

<4km団体追抜競走>

順位決定戦で、全チームが予選の成績を上回るタイムを連発。そのなかで、学連チームが力強い走りで見事チームに3秒差をつけて優勝した。

<チームスプリント>

優勝候補の高体連選抜が2度のスタートミスでDNS。それとは逆に学連チームが絶妙のスタートを切り、1分18秒台で優勝。(橋本 浩)



[競技結果]

(5/29-30 兵庫・明石公園競技場400m)

1kmタイムトライアル	
1	川村 崇 東京 早稲田大学 1:08.210
2	伊藤 太一 山梨 日本大学 1:09.126
3	在本 直樹 岡山 県体育協会 1:09.479
4	矢野 光浩 香川 サウザン FET 1:09.570
5	矢野 賢児 高知 リンゴ・レッド TT 1:09.765
6	西村 行貴 熊本 日本大学 1:10.164

スプリント

1	川村 崇 東京 早稲田大学
2	河端 朋之 鳥取 倉吉工高・教
3	鈴木 英介 静岡 マット・ド・フェリア
4	佐川 翔吾 大阪 順天堂大学
5	小堺 浩二 石川 京都産業大学
6	柴崎 俊光 三重 中央大学

4km個人追抜競走

1	黒木 裕介 宮崎 法政大学 4:51.458
2	明珍多久雄 福島 日本大学 5:06.731
3	三木 哲也 兵庫 川重車両 5:08.634
4	高島 豪 埼玉 中央大学 5:13.287
5	明珍 周兵 福島 法政大学 5:00.890
6	伊藤 太一 山梨 日本大学 5:03.840

ケイリン

1	大木 卓也 茨城 スパ・Kアスリート
---	--------------------

2	柴崎 俊光 三重 中央大学
3	小堺 浩二 石川 京都産業大学
3	川崎 大慈 熊本 順天堂大学
5	吉田 康則 岡山 岡山県体育協会
6	三谷 将太 滋賀 チームびわこ

ポイントレース

1	盛 一大 茨城 日本大学 18p
2	三瀧 光誠 山形 鹿屋体育大学 16p
3	池田 丈志 奈良 鹿屋体育大学 15p
4	佐藤 佑一 岩手 順天堂大学 15p
5	宮原 哲弥 福岡 早稲田大学 12p
6	武藤 大輔 高知 リンゴ・レッド TT 11p

ケイリン

1	関 東 盛・伊藤 23p
2	岐 卓A 青木・柴田 (-1) 15p
3	学 連 明珍・吉田 (-1) 9p
4	富 山 矢代・坂本 (-2) 6p
5	広 島 緒方・山口 (-4) 10p
6	岐 卓B 郡山・佐野 (-4) 3p

チームスプリント

1	学 連 佐藤・川崎・佐川 1:18.822
2	鳥 取 河端・桜井・岩本 1:20.077
3	岡 山 吉田・在本・赤澤 1:21.158
4	富 山 矢代・笹倉・坂本 1:22.503

4km団体追抜競走

1	学 連 黒木・柴田・明珍・片山 4:30.633
2	岐 卓 中島・吉田・青木・川西 4:34.453
3	高体連 房州・奥田・石川・稲吉 4:39.684
4	崎 玉 高島・菅原・宿口・緒方 4:45.936
5	福 島 明珍・糸賀・小豆畑・竹内 4:44.257
6	岡 山 行成・清水・田中・片山 4:52.902

女子500mタイムトライアル

1	遠藤 友子 大分 鹿屋体育大学 37.588
2	篠崎 新純 千葉 明治大学 38.310
3	濱田 真子 東京 ミタビ・初ハ・ル 40.727
4	青木千江子 群馬 育英短期大学 40.929
5	埋田 麻衣 大分 鹿屋体育大学 41.737
6	遠山 恵 岩手 順天堂大学 41.755

女子スプリント

1	遠藤 友子 大分 鹿屋体育大学
2	篠崎 新純 千葉 明治大学
3	埋田 麻衣 大分 鹿屋体育大学
4	大塚 沙織 大阪 キャットアイ
5	遠山 恵 岩手 順天堂大学

女子3km個人追抜競走

1	村中恵美子 東京 かりんびわこ 4:11.529
2	唐見実世子 石川 カリーズ 4:16.406
3	永田 萌子 大分 明治大学 4:19.096
4	大塚 沙織 大阪 キャットアイ 4:19.686
5	宮崎 杏菜 大分 鹿屋体育大 4:21.316
6	青木千江子 群馬 育英短期大 4:23.077

女子ポイントレース

1	松永 舞美 香川 法政大学 17p
2	森本 朱美 鳥取 鳥取湖陵高校・教 17p
3	宮崎 杏菜 大分 鹿屋体育大学 10p
4	村中恵美子 東京 かりんびわこ 7p
5	永田 萌子 大分 明治大学 3p
6	唐見実世子 石川 カリーズ 1p

2004年JOCジュニアオリンピックカップ自転車競技大会



あった榛原高校の奥田が3分41秒台のタイムで入賞。房州、奥田の対決がインターハイの目玉になる、そんな予感をさせるレースであった。

<24km

ポイントレース>

前年度優勝者の早稲田大西村を中心と

ここ数年、将来の自転車競技界を引っ張る新星誕生の場となっているJOCカップが、国体を控えた明石の地で全アマ同時開催という形で行われた。

<1kmタイムトライアル>

3月末の全国選抜大会の優勝者、準優勝者の対戦はまたも高松高専の大西が仙台商業の菅田を僅差で破り優勝。好タイムの出にくい明石のバンクにおいて一人1分7秒台は、同時開催の全アマ組にもなく、立派な記録であった。また3位には同県の高松工芸高、網谷が入賞を果たした。

<スプリント>

1kmタイムトライアルと同様スプリントも、六郷高校の高橋と朝明高校の柴崎という全国選抜大会と同じ顔ぶれの決勝戦となった。選抜では、1勝先取後の逆転負けを喫している高橋であったが、今回は豪快な捲りで先取し、そのままの勢いで2本目も勝利。力強い走りが印象的であった。

<3km個人追抜競走>

全国選抜チャンピオンの平工業高校、房州が貫禄のV。続く2位には、大学生を押しつけて選抜大会で8位で

したレース展開が予想されるなか、前半レースを引っ張ったのは中央大の長江であった。折り返しの6回目のポイント終了で、2位と4点差の唯一の二桁得点獲得。一方、西村は4点。このレースは長江のものかと思われた後半、西村が得点ラッシュ。残り5回のポイントで15点を獲得、逆転V2を飾った。3位には鹿屋体育大学の片山が入り、高校生の紀北工業高森本、東北高校遠藤、榛原高校吉田が、10点でそれぞれ上位に入った。

<500mタイムトライアル>

前橋育英の岡が貫禄の優勝。選抜大会に引き続いての勝利。2位にも同じ群馬の伊勢崎女子高校の萩原が入った。

<女子スプリント>

前橋育英岡と、千原台高校牛島の選抜500mタイムトライアル1位、2位の対決となった決勝は岡の2連勝で幕を閉じた。岡は500mに続いての優勝。

<2km個人追抜競走>

500mで2位に甘んじた伊勢崎女子高校の萩原が2位に約9秒の大差をつけ優勝。(橋本 浩)

[競技結果]

1kmタイムトライアル

- | | | | | |
|---|-------|-----|-------|----------|
| 1 | 大西 祐 | 香川 | 高松工業高 | 1:07.944 |
| 2 | 菅田 孝道 | 宮城 | 仙台商業高 | 1:08.388 |
| 3 | 網谷 竜次 | 香川 | 高松工芸高 | 1:08.897 |
| 4 | 中村 健志 | 熊本 | 日本大学 | 1:10.135 |
| 5 | 中野 彰人 | 和歌山 | 和歌山北高 | 1:10.347 |
| 6 | 我妻 敏 | 福島 | 学法石川高 | 1:10.777 |

スプリント

- | | | | | |
|---|-------|-----|----------|--|
| 1 | 高橋 紀史 | 秋田 | 六郷高校 | |
| 2 | 柴崎 淳 | 三重 | 朝明高校 | |
| 3 | 寺田 信彦 | 大分 | | |
| 4 | 中野 彰人 | 和歌山 | 和歌山北高校 | |
| 5 | 近藤 悠人 | 鹿児島 | 南大隅高校 | |
| 6 | 中園 朋亨 | 福岡 | 久米工大附属高校 | |

3km個人追抜競走

- | | | | | |
|---|-------|----|-------|----------|
| 1 | 房州 輝也 | 福島 | 平工業高校 | 3:39.080 |
| 2 | 奥田 賢司 | 奈良 | 榛原高校 | 3:41.859 |
| 3 | 根本 哲史 | 秋田 | 明治大学 | 3:39.595 |
| 4 | 若槻 彰隆 | 大阪 | 朝日大学 | 3:43.958 |
| 5 | 川西 貴之 | 岐阜 | 岐南工業高 | 3:43.149 |
| 6 | 稲吉 悠大 | 福岡 | 久工大附高 | 3:44.410 |

ポイントレース

- | | | | | |
|---|-------|-----|--------|-----|
| 1 | 西村 光太 | 三重 | 早稲田大学 | 19p |
| 2 | 長江 寿也 | 青森 | 中央大学 | 16p |
| 3 | 片山 和正 | 岡山 | 鹿屋体育大学 | 13p |
| 4 | 森本 隆太 | 和歌山 | 紀北工業高校 | 10p |
| 5 | 遠藤 邦明 | 宮城 | 東北高校 | 10p |
| 6 | 吉田 真人 | 奈良 | 榛原高校 | 10p |

女子500mタイムトライアル

- | | | | | |
|---|-------|----|--------|--------|
| 1 | 岡 希美 | 群馬 | 前橋育英高校 | 38.753 |
| 2 | 萩原麻由子 | 群馬 | 伊勢崎女子高 | 39.966 |
| 3 | 佐藤 美香 | 大分 | 別府商業高校 | 40.005 |
| 4 | 牛島 愛 | 熊本 | 千原台高校 | 40.030 |
| 5 | 栗原 瞳 | 埼玉 | 杉戸農業高校 | 40.627 |
| 6 | 河端あゆみ | 鳥取 | 倉吉総合産高 | 41.240 |

女子スプリント

- | | | | | |
|---|-------|----|--------|--|
| 1 | 岡 希美 | 群馬 | 前橋育英高校 | |
| 2 | 牛島 愛 | 熊本 | 千原台高校 | |
| 3 | 佐藤 美香 | 大分 | 別府商業高校 | |
| 4 | 栗原 瞳 | 埼玉 | 杉戸農業高校 | |
| 5 | 森 智恵美 | 京都 | 北桑田高校 | |
| 6 | 早坂ありさ | 宮城 | 東北高校 | |

女子2km個人追抜競走

- | | | | | |
|---|-------|----|--------|----------|
| 1 | 萩原麻由子 | 群馬 | 伊勢崎女子 | 2:41.493 |
| 2 | 石井 寛子 | 埼玉 | 明治大学 | 2:50.350 |
| 3 | 和田見里美 | 鳥取 | 倉吉東高校 | 2:48.835 |
| 4 | 森 智恵美 | 京都 | 北桑田高校 | 2:53.876 |
| 5 | 高倉 実希 | 岩手 | 伊保内高校 | 2:53.814 |
| 6 | 河端あゆみ | 鳥取 | 倉吉総合産高 | 3:01.359 |

JOCジュニアオリンピックカップ 受賞者

- 男子 高橋 紀史 秋田 六郷高校
女子 岡 希美 群馬 前橋育英高校

トラック・ロード第1級公認審判員の承認について

平成15年度第4回理事会において下記の方が承認されました。

伊東 光雄(秋田)・藤田 晃三(埼玉)
山口 一樹(山梨)・小山 健治(兵庫)
飯田 太文(JPCA)



2004年トラック世界選手権大会



第28回オリンピック・アテネ大会の出場権を賭けた熱い戦いは5月26日～30日、オーストラリア・メルボルンのボーダホン・アリーナで開催された。

ナショナルチームはシドニー・ワールドカップ終了後、引き続きオーストラリアに滞在し、5月17日からアデレード合宿を実施し大会に備えた。

5月22日、日本から直接大会入りした4名の選手と共にメルボルンに入り、23～25日トラックでの調整、26日大会本番を迎えた。

大会第1日、チームスプリント。昨年惨敗したフランスがオリンピックに向け体制を立て直し王者に返り咲き、スペイン、オランダが躍進、ドイツ、イギリス、オーストラリアがやや後退、日本チームは伏見俊昭、長塚智広、永井清史で予選に挑み日本記録を更新したが7位と思った程記録は伸びなかった。1回戦は永井に変え井上昌己を起用し上位進出を図るが、2度のスタート不揃い後、3回目に漸くスタート、集中力が途切れたレースとなり好結果は出せなかった。

ポイントレースは飯島誠が出場。作戦として前半は押さえ、後半の勝負に賭ける。中盤、飯島を含む4名が飛び出しラップ、その後集団に吸収されるが小刻みに得点を重ね最終ポイント前には3位に浮上し表彰台も見えたが、ラストポイントで逆転され6位で惜しくもオリンピック出場権は獲得出来なかった。(30日行われたマディソンの結果、出場権を獲得)

大会第2日、1kmTTには井上昌己、矢口啓一郎が出場した。今大会、世界の

トップは1分1～2秒前半のタイムで走り、平地で1分03秒910の自己ベストを記録した井上13位、矢口17位。4km個人追抜の内田慶、女子ケイリンの太刀川麻也は共に予選落ち。

大会第3日、

男子ケイリン。オリンピックの出場権獲得を目指し山田裕仁、伏見俊昭、矢口啓一郎が必勝を期し出場したが、強豪選手のオリンピック出場権獲得に対する意識、執念は凄まじく、予選から火の出るような激しいレースが展開された。日本選手は流れに乗り切れず力を出し切れないままのレースとなり、予選を突破出来なかった。スクラッチの内田慶は決勝11位。スピード、スタミナ共に世界レベルにはまだまだで、距離を感じた。

大会第4日、男子スプリントにはオリンピックの出場権を賭けワールドカップランキング4位の永井清史、シドニー・ワールドカップ4位と好調の金子貴志、世界選初出場の稲垣裕之が出場。200mTT、永井は10秒429で9位、稲垣は10秒624で18位、金子は10秒651、20位で残念ながら予選落ち。永井、稲垣共に1回戦、敗者復活戦共に破れ上位進出は出来なかった。

大会最終日は日本選手の出番が無く敵情視察、レース観戦となった。中でも特に印象に残ったレースはスプリント準々決勝テオ・

ボス(オランダ)対ジミー・スタッフの戦いで、ケイリンを優勝し勢いに乗るスタッフが1本先取した2本目、2周目3コーナー仕掛け争いで絡みボスが落車し再レースとなったが再レースでもボスは再び落車してしまい、誰の目にも再々レースでのボスの勝利は無いと感じられた。しかし劣性を闘志、気力ではね除けて勝利し、3本目も取り、勢いで準決勝も勝って、決勝は世界の強豪ローラン・ガネと対戦したが、ストレートで簡単に破って優勝してしまった。

この結果は日頃の厳しく苦しいトレーニングで培った体力もさることながら闘志、気力の充実、レースに対する集中力、勝利への執念が生んだ結果だと痛感させられた。この他にも大会を通して印象に残ったレースとしては、ケイリン準決勝、決勝進出を賭けた壮絶な戦い、チームスプリント王座奪還を目指したフランスチームの戦い等が上げられる。

今大会は総勢12名の選手が戦いに臨んだが、飯島誠のポイント6位が最高位で、オリンピックでメダル獲得を目指すチームスプリントは7位に終わった。(オリンピックの出場権は獲得出来たが)その他の種目は健闘及ばず満足出来る結果は得られなかった。

今回の結果はシドニー・ワールドカップ、アデレード合宿、メルボルン世界選手権と初めて経験する21日間に及び長期遠征、緊張の連続、その中で結果を求められた選手は、世界選本番を心身共に疲れ切った状態で臨まなければ



ポイントレース6位の飯島

為らず、持てる力を目一杯出し切ることが出来なかった。

今年の大会の結果見ると、競輪の日程もあって強化合宿も十分に出来なかったが、選手個々が自覚を持ってトレーニングを続けて来た結果、ナショナルチームは伏見、金子、長塚、井上、矢口、永井の若手選手が着実に力を付けて来ている。今後第28回オリンピック・アテネ大会に向け計画的な期分けにより強化を行えば、好結果が期待出来るチームに仕上がると思われます。

(班目 秀雄)



[競技結果]

1kmタイムトライアル

1	Chris Hoy	GBR	1:01.599
2	Arnaud Tournant	FRN	1:01.957
3	Theo Bos	NED	1:02.055
13	井上 昌己	JPN	1:03.910
17	矢口啓一郎	JPN	1:04.827

スプリント

1	Theo Bos	NED	
2	Laurent Gane	FRA	
3	Ryan Bayley	AUS	
	金子 貴志	JPN	予選敗退
	永井 清史	JPN	1/16敗復敗退
	稲垣 裕之	JPN	1/16敗復敗退

チームスプリント

1	France	44.422
---	--------	--------

2	Great Britain	44.482
3	Spain	44.845
7	日本 長塚・伏見・井上	45.353

ケイリン

1	Jamie Staff	GBR	
2	Jose Antonio Escuredo Raimondez	ESP	
3	Vrba Ivan	CZE	
	山田 裕仁	JPN	1回戦敗復敗退
	伏見 俊昭	JPN	1回戦敗復敗退
	矢口啓一郎	JPN	1回戦敗復敗退

4km個人追抜競走

1	Sergi Escobar Roure	ESP	4:19.382
2	Robert Hayles	GBR	4:20.337
3	Robert Bartko	GBR	4:20.928
	内田 慶	JPN	予選敗退4:32.272

スクラッチ

1	Greg Henderson	NEZ
2	Robert Slippens	NED
3	Walter Perez	ARG
11	内田 慶	JPN

ポイントレース

1	Franck Perque	FRA	35p
2	Milton Wynants	URG	31p
3	Juan Esteban Curuchet	ARG	28p
6	飯島 誠	JPN	26p

女子ケイリン

1	Clara Sanchez	FRA
2	Elisa Frisoni	ITA
3	Jennie Reed	USA
11	太刀川麻也	JPN

2004年トラック世界選手権大会派遣選手団

大会日 平成16年5月26日～30日
 場所 オーストラリア・メルボルン
 派遣期間 平成16年5月21日～31日
 選手団

監督 ゲーリー・ウエスト(JCFチームディレクター)

コーチ 班目 秀雄(JCFヘッドコーチ)・松本 秀憲(JPCAコーチ)

効エック 森 昭雄・鬼原 積(JCFスタッフ)

マッサージ 柳 浩史(JCFスタッフ)

ドクター 小林 裕幸(防衛医大医師)

通訳 増田恵美子(JCFスタッフ)

総務 林 富士夫・関口 美裕(JCF強化部)・木曾 信彦(JPCUスタッフ)

選手 神山雄一郎(JPCA栃木)・山田 裕仁(JPCA岐阜)・伏見 俊昭(JPCA福島)

金子 貴志(JPCA愛知)・長塚 智広(JPCA茨城)・矢口啓一郎(JPCA群馬)

井上 昌己(JPCA長崎)・永井 清史(JPCA岐阜)・稲垣 裕之(JPCA京都)

内田 慶(JPCA栃木)・飯島 誠(JPCA)・太刀川麻也(茨城)



競輪新聞の発展



日本新記録

チーム・スプリント(250m×3)

男子プロ 45秒219 日本(長塚 智広、伏見 俊昭、永井 清史) 2004/5/26 オーストラリア・メルボルン

UCIトラックワールドカップ・クラシックス第4戦シドニー



5月11日午後9時10分、成田発オーストラリア・シドニー行きの飛行機に乗り空路約9時間、シドニーキングスフォード国際空港に到着した。早速、荷物を受け取り、ダングレイベロドロームに入り、レーサーを組み立てて練習を開始した。

大会初日5月14日は、ケイリンの1回戦、矢口啓一郎の出走だ。レースは残り2周から先行態勢に入り逃げ切り。矢口は1着上がりタイム10秒816・・・初めてのワールドカップのケイリンを見た私は感動を覚えた。

2回戦もなんとなく逃げ切り1着、決勝は惜しくも6着に敗れたが、素晴らしいレース内容だった。

さて、後半は1kmTT井上昌己の出走、スタートからいいペースで走り1分5秒049で惜しくも4秒台には届かなかったが見事、銅メダルを獲得した。今回開催初めての日の丸だ。

5月15日は、スプリントの予選。永井6位、金子11位で通過、勝ち上がりで敗者復活回りもあったが順調に勝ち進み、1/2決勝。これに勝てば決勝は日本人同士となる。しかし惜しくも力及ばず敗退、3・4位決定戦回りになった。そして、予選から数えて10本目、金子が永井を下し3位、永井が4位となり、スプリントにおける銅メダルは実に9年ぶりである。金子は、世界選に照準を合わせていて「調子はいまひとつ」と言っていたが走るにつれ仕上がっていったようだ。

女子500mTTは大菅小百合が出走したが8位に終わった。タイムも36秒台とふるわなかったが今後の調整でもっと上位を狙えるだろう。

ポイントレースは飯島誠が出走し惜

しくも4位(1点差)。飯島のあの積極果敢なレース振り、私をまた感動させてくれた。

5月16日最終日はチームスプリントだ。予選は長塚智広、伏見

俊昭、井上昌己のメンバー。気合一発スタートしたが長塚のスーパーダッシュにタイヤがついていかず空回りしタイムが伸びず3位となり、3位4位決定戦は長塚、神山、伏見のメンバー。スタートから順調にとぼして、キューバを引き離し3位となり、今開催は毎日、日の丸が見られた。

今回、初めてワールドカップに参加し思ったことは、選手・スタッフが丸となって頑張っていたことだ。本当に素晴らしい経験をさせて頂いた。

選手達はそのままアデレードで合宿、そしてメルボルンの世界選手権に参加する。心よりの健闘を祈る。

最後にナショナルチームの皆様、スタッフの皆様、ほんとうにありがとうございました。(西野 卓也)

[競技結果]

男子ｽﾌﾟﾘﾝﾄ

- | | | |
|---|----------------------------------|-----|
| 1 | MACLEAN Craig | GBR |
| 2 | VILLANUEVA TRANIDAD Jose Antonio | ESP |
| 3 | 金子 貴志 | JPN |
| 4 | 永井 清史 | JPN |

男子1kmﾀｲﾑﾄﾗｲｱﾙ

- | | | | |
|---|-------------|-----|----------|
| 1 | HOY Chris | GBR | 1:02.399 |
| 2 | LOPEZ Ahmed | CUB | 1:04.608 |
| 3 | 井上 昌己 | JPN | 1:05.049 |

男子ケｲﾘﾝ

- | | | |
|---|----------------------------------|-----|
| 1 | DAJKA Jobie | AUS |
| 2 | VILLANUEVA TRANIDAD Jose Antonio | ESP |
| 3 | PEDEN Anthony | NZL |
| 6 | 矢口啓一郎 | JPN |

男子500mﾀｲﾑﾄﾗｲｱﾙ (30km)

- | | | | |
|---|-----------------------|-----|------|
| 1 | PEARCE Colby | USA | 50 p |
| 2 | NEWTON Christopher | GBR | 36 p |
| 3 | LLANERAS ROSELLO Joan | ESP | 35 p |
| 4 | 飯島 誠 | JPN | 34 p |

男子500mｽﾌﾟﾘﾝﾄ

- | | | |
|---|---------------|--------|
| 1 | GREAT BRITAIN | 44:384 |
| 2 | POLAND | 45.688 |
| 3 | 日本 伏見・神山・長塚 | 45.426 |

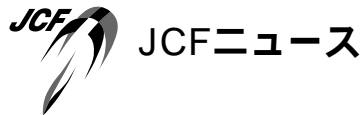
女子500mﾀｲﾑﾄﾗｲｱﾙ

- | | | | |
|---|------------------|-----|--------|
| 1 | HIJGENAAR Yvonne | NED | 35:100 |
| 2 | MUENZER Lori-Ann | CAN | 35.562 |
| 3 | SANCHEZ Clara | FRA | 35.708 |
| 8 | 大菅小百合 | JPN | 36:321 |

女子ｽﾌﾟﾘﾝﾄ

- | | | | |
|---|------------------|-----|------|
| 1 | MEARES Anna | AUS | |
| 2 | LINDEMUTH Tanya | USA | |
| 3 | MUENZER Lori-Ann | CAN | |
| | 大菅小百合 | JPN | 予選敗退 |





ヘルメットの新規公認

公認番号	公認日付	公認申請社	製造社	形式名	公認条件
199	2004.5.21	山本光学(株)	ジロ	E2(イーツー)	バイザーはマウンテンバイク・クロスカンントリー・シクロクロスにおいてのみ使用が認められている旨の注意書を同梱すること。
200	2004.5.21	山本光学(株)	ジロ	ECLIPSE(エクリプス)	
201	2004.5.21	山本光学(株)	ジロ	PNEUMO(ニューモ)	バイザーはマウンテンバイク・クロスカンントリー・シクロクロスにおいてのみ使用が認められている旨の注意書を同梱すること。
204	2004.5.21	山本光学(株)	ジロ	ENCINAL(エンシナル)	バイザーはマウンテンバイク・クロスカンントリー・シクロクロスにおいてのみ使用が認められている旨の注意書を同梱すること。
205	2004.5.21	山本光学(株)	ジロ	TRANSIT(トランジット)	
206	2004.5.21	山本光学(株)	ジロ	ATLAS(アトラス)	バイザーはマウンテンバイク・クロスカンントリー・シクロクロスにおいてのみ使用が認められている旨の注意書を同梱すること。
207	2004.5.21	山本光学(株)	ジロ	HAVOC(ハボック)	バイザーはマウンテンバイク・クロスカンントリー・シクロクロスにおいてのみ使用が認められている旨の注意書を同梱すること。
208	2004.5.21	山本光学(株)	ジロ	ANIMAS(アニマス)	バイザーはマウンテンバイク・クロスカンントリー・シクロクロスにおいてのみ使用が認められている旨の注意書を同梱すること。
211	2004.5.21	山本光学(株)	ジロ	TORRENT(トレント)	バイザーはマウンテンバイク・クロスカンントリー・シクロクロスにおいてのみ使用が認められている旨の注意書を同梱すること。
213	2004.5.21	山本光学(株)	ジロ	XEN(ゼン)	バイザーはマウンテンバイク・クロスカンントリー・シクロクロスにおいてのみ使用が認められている旨の注意書を同梱すること。
229	2004.5.11	山本光学(株)	ジロ	Monza(モンツァ)	
230	2004.5.11	山本光学(株)	ジロ	Atmos(アトモス)	
166	2004.4.5	(株)深谷産業	SELEV S.A.S.	ALIEN(エイリアン)	
179	2004.4.5	(株)深谷産業	SELEV S.A.S.	ATOM(アトム)	
209	2004.4.5	(株)深谷産業	SELEV S.A.S.	FELIX(フェリックス)	
210	2004.4.5	(株)深谷産業	SELEV S.A.S.	EGO(エゴ)	
195	2004.4.5	オージーケー販売(株)	ストラテックスパーツ(株)	アレクス	
223	2004.4.5	オージーケー販売(株)	オージーケー技研(株)	W-3	バイザーはマウンテンバイク・クロスカンントリー・シクロクロスにおいてのみ使用が認められている旨の注意書を同梱すること。
224	2004.4.27	オージーケー販売(株)	オージーケー技研(株)	W-5	
192	2004.4.5	ルディープロジェクトジャパン(有)	ルディープロジェクト	フルヤ(FURYA)	
227	2004.4.5	ルディープロジェクトジャパン(有)	ルディープロジェクト	アイロン(AYRON)	
228	2004.4.5	ルディープロジェクトジャパン(有)	ルディープロジェクト	グリンタ(GRYNTA)	バイザーはマウンテンバイク・クロスカンントリー・シクロクロスにおいてのみ使用が認められている旨の注意書を同梱すること。
		山本光学(株)	〒577-0056	大阪府東大阪市長堂3-25-8	06-6783-1109
		(株)深谷産業	〒460-0015	愛知県名古屋市中区大井町1-38	052-321-6571
		オージーケー販売(株)	〒577-0016	大阪府東大阪市長田西6-3-4	06-6747-8031
		ルディープロジェクトジャパン(有)	〒630-8452	奈良県奈良市北之庄西町2-8-15	0742-64-7001

競技大会結果

チーム名等については略して記載

第44 回東日本学生選手権
(5/9 東京・立川競輪場)

男子1kmタイムトライアル

1	川村 崇	早稲田大学	1:08.14
2	伊藤 太一	日本大学	1:09.59
3	黒木 裕介	法政大学	1:09.71
4	中村 健志	日本大学	1:09.73
5	西村 尚文	法政大学	1:10.18
6	川崎 大慈	順天堂大学	1:10.35

男子スプリント

1	和田 圭	東北学院大学
2	福山 健太	法政大学
3	佐川 翔吾	順天堂大学
4	園田 鉄兵	北海学園北見大学
5	花澤 純二	明治大学
6	山田 賢	明治大学

男子4km個人追抜競走

1	西村 行貴	日本大学	4:50.926
2	片山 智晴	法政大学	4:59.906
3	根本 哲史	明治大学	5:00.995

4	成田 将平	法政大学	5:01.198
5	明珍多久雄	日本大学	5:02.948
6	青木 康貴	日本大学	5:02.988

男子ケイリン

1	柴崎 俊光	中央大学
2	鈴木雄一朗	日本大学
3	屋良 朝春	日本大学
4	杉田 宜講	明治大学
5	高橋 韻旨	法政大学
6	堀川 寛太	法政大学

男子ポイントレース

1	高島 豪	中央大学	19p
2	吉次 裕司	早稲田大学	18p
3	佐藤 佑一	順天堂大学	14p
4	柴田 祐也	法政大学	14p
5	盛 一大	日本大学	13p
6	谷垣 雄基	日本大学	8p

男子チームスプリント

1	日本大学	1:19.891
2	法政大学	1:20.724
3	順天堂大学	1:20.900
4	明治大学	1:21.600
5	北海学園北見大学	1:22.133
6	立教大学	1:26.581

男子4km団体追抜競走

1	日本大学	4:30.446
2	法政大学	4:31.703
3	中央大学	4:36.376
4	明治大学	4:38.634
5	早稲田大学	4:40.791
6	東北学院大学	4:53.867

女子500mタイムトライアル

1	篠崎 新純	明治大学	39.06
2	佃 咲江	北海学園北見大学	39.78
3	青木千江子	育英短期大学	40.81

女子スプリント

1	篠崎 新純	明治大学
2	石井 寛子	明治大学
3	松永 舞美	法政大学

女子3km個人追抜競走

1	佃 咲江	北海学園北見大	4:20.695
2	松永 舞美	法政大学	4:22.649
3	中村 珠藻	順天堂大学	4:20.938

2004 JCF MTB ジャパンシリーズ J1 XC #2
<アテネ五輪第二次選考予選会>
(5/16 宮城・仙台市泉ヶ岳)

リット男子(42.0km)	
1	竹谷 賢二 千葉 SPECIALIZED 2:09:51.7

前号、高校選抜の記事中一部誤りがありました。[競技結果]部分が正式なリザルトです。

2	鈴木 雷太	長野	ブリヂストン	2:10:44.7
3	色川 浩樹	茨城	GIANT J.	2:12:12.2
4	小笠原崇裕	長野	G.FISHER	2:13:48.6
5	山口 孝徳	長野	MX/MONG	2:14:32.1
6	武井 亨介	茨城	FORZA	2:15:11.8
7	湯本 優	千葉	カ-	2:15:17.8
8	小野寺 健	京都	TREK J.	2:15:32.1
9	宇田川聡仁	長野	ブリヂストン	2:16:13.5
10	堂城 賢	長野	G.FISHER	2:17:37.4
I-T女子 (24.0km)				
1	片山 梨絵	神奈川	TREK	1:25:21.2
2	高橋いづみ	東京	SY-Nak	1:26:59.2
3	深井 薫	大阪	G.FISHER	1:26:59.4
4	真下 正美	神奈川	SY-Nak	1:28:15.6
5	田崎 綾	千葉		1:28:42.6
6	田近 郁美	岐阜	GOD HILL	1:29:56.1
7	内田 順子	東京	SY-Nak	1:35:37.2
8	岐部 容子	福岡	MASAYA	1:36:04.5
9	佐々木優子	茨城	FORZA	1:36:47.1
10	矢沢みつみ	山梨		1:38:44.1

7	竹本 将史	埼玉	ブリヂストン	3:35.018
8	丸山 弘起	長野	MTBmaga.	3:35.046
9	向原 健司	大阪	カハバ 伊	3:35.275
10	塚本 岳	埼玉		3:35.922
DH-I-T女子 (2.0km)				
1	末政 実緒	兵庫	Sammy/TREK	4:04.827
2	鴨下 美穂	神奈川	風魔横浜	4:16.364
3	渡辺 かり	長野	Cannondale	4:18.947
4	福本 弘佳	兵庫	Devinci/RR	4:37.179
5	猪俣 浩子	神奈川		4:39.925
6	大松 幸代	福岡	SouthernW.	5:00.722
7	岡崎 早苗	京都	マ'イコルト	5:07.635
8	大西 雅美	兵庫	YRS-ANC.	5:10.498
9	寿 弥生	岩手	KONA Dim.	5:10.569
10	服部 良子	神奈川	風魔横浜	5:10.616
XC-I-T男子 (45.0km)				
1	山口 孝徳	長野	MX/MONG	1:57:49.0
2	宇田川聡仁	長野	ブリヂストン	1:58:32.2
3	野口 忍	京都	TREK	2:01:30.9

4	リヤート'ナッ	長野	MX/STOR.	2:01:52.1
5	辻浦 圭一	長野	ブリヂストン	2:02:25.8
6	小野寺 健	京都	TREK	2:02:27.1
7	深谷 幸彦	愛知	MX/STOR.	2:04:00.9
8	松本 駿	長野	TREK	2:04:12.6
9	堂城 賢	長野	G.FISHER	2:04:18.6
10	竹之内 悠	京都	パ'ナソニック	2:07:12.3
XC-I-T女子 (30.0km)				
1	片山 梨絵	神奈川	TREK	1:36:46.5
2	中込由香里	長野	SY-Nak	1:37:06.4
3	深井 薫	大阪	G.FISHER	1:40:37.7
4	田崎 綾	千葉		1:44:34.1
5	狩俣けい子	大阪	ガ'ャピ'ン	1:48:00.2
6	長井 美香	京都	FUN RUID	1:48:52.1
7	伊藤真里子	京都	パ'ソ	1:51:02.4
8	菊川 明子	岡山	岡山大学	1:51:56.8
9	池田 桂子	大阪	ガ'ャピ'ン	1:52:31.1
10	矢沢みつみ	山梨		1:53:09.6

2004 JCF MTB ジャパンシリーズ J1DH #1・XC #3 (5/22-23日 滋賀・今津町箱館山)
DH-I-T男子 (2.0km)
1 安達 靖 愛知 Cannondale 3:29.534
2 内嶋 亮 東京 3:33.091
3 井手川直樹 広島 G Cross 3:33.441
4 高橋 唯之 福島 G Cross 3:34.242
5 大島 礼治 兵庫 MTBmaga. 3:34.513
6 丸山由紀夫 愛知 Mom&Pop's 3:34.778

加盟団体 住所等変更
福井県自転車競技連盟
福井県坂井郡春江町江留上緑8-1 福井県立春江工業高等学校内
〒919-0461 TEL: 0776-51-0178
島根県自転車競技連盟
島根県松江市八雲台2-14-17 寺本道彦 様方
〒690-0014 TEL: 090-4897-9160
全国高体連自転車競技専門部
鹿児島県鹿児島市五ヶ別府町3591-3 鹿児島実業高校 重様
〒891-0180 TEL: 099-286-1313

JOCアンチ・ドーピング規定について
上記規定はアテネ・オリンピック日本代表選手に対するドーピング検査を含む、今後JOCが実施するドーピング検査に対して、摘要されます。詳しくは下記JOCホームページで。
<http://www.joc.or.jp>

連盟の動き (5月中旬～6月上旬)

- 5月11日 2004年UCIトラック・ワールドカップ第4戦選手団出発 於：オーストラリア・シドニー (帰国 13日)
- 19日 日本オリンピック委員会国際委員会 於：国立スポーツ科学センター
- 20日 平成16年度第1回財政部会
- 21日 2004年UCIトラック世界選手権大会選手団出発 於：オーストラリア・メルボルン (帰国 31日)
- 24日 公認会計士監査 (~26日)
- 6月2日 平成16年度第1回総務委員会
- 3日 平成16年度第2回強化委員会
- 7日 JCF 監事監査
- 9日 平成16年度第1回国際競技大会派遣選手選考委員会
平成16年度第1回常務理事会
アテネ五輪自転車競技日本代表候補選手記者発表 於：自転車会館イベントホール

6・7月の主な予定

- 6月13日 2004年全日本選手権個人タイムトライアルロードレース 於：秋田・大湯村
- 15日 トラック強化合宿 於：群馬・前橋市 (~22日)
- 18日 平成16年度第1回理事会
- 23日 サイクルスポーツフェスティバル2004 アテネ五輪代表壮行会 於：東京ドーム
- 25日 平成16年度第1回評議員会
- 7月10日 第7回全日本自転車競技選手権トラック 於：宮城・大和町 (~11日)
- 17日 2004年全日本MTB選手権大会 / XC・DH 於：秋田・田沢湖 (~18日)



シクリスムエコー No.108 2004年6月号

発行 / 財団法人 日本自転車競技連盟
 発行人 / 岩 楯 昭 一
 編集人 / 加 藤 昭
 編集事務局 / 財団法人 日本自転車競技連盟 事務局
 〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-15 日本自転車会館内
 TEL 03-3582-3713 FAX 03-5561-0508
 URL <http://www.jcf.or.jp/>

JCF協賛スポンサー

富士重工業株式会社

森永製菓株式会社健康事業部

ラピスタ新橋
株式会社サテライトジャパン